

ふくいレインボーファーム グローバルG.A.P.に基づき 米づくり

安全・安心と技術を向上 グローバルG.A.P.取得

「つくる、つなぐ、まなぶを通じて福井の元
気作りに貢献すること」を掲げ、県民せいぎよ
うのグループ会社として敦賀市とあわら市を
中心に農場を展開するふくいレインボー
ファーム。敦賀では稲作とみかん栽培を中心
に取り組み、あわらではキャベツなどの露地
野菜を栽培。敦賀の田んぼでは、コシヒカリ、
あきさかり、ハナエチゼンに加え、今年からい
ちほまれの本格生産が始まりました。



2017年11月には、お
米、キャベツ、
みかんの3品
目で、県内初
となるグロー
バルG.A.P.
(※)個別認証



Profile

ふくいレインボーファーム
株式会社
(あわら市・敦賀市)
取締役
宮越 博之さん

2016年設立。地域と連携を
図りながら、県内の農業活
性化をめざし、地産地消推
進や耕作放棄地解消などに
取り組んでいる。

「農業や肥料だけでなく、水を何リットル、
どのように使ったかまで記録することが求め
られる。世界的にみると水は枯渇資源である
ことを改めて認識しましたし、それをあまり
意識せずにする福井は恵まれた地域であるこ
とも感じました」。田んぼはもちろん、水源と

体験や情報発信を通して 農業の元気作りに貢献を

グローバルG.A.P.の認証取得で、「一番驚い
たのが「水の問題」だと宮越さんは振り返りま
す。「農業や肥料だけでなく、水を何リットル、
どのように使ったかまで記録することが求め
られる。世界的にみると水は枯渇資源である
ことを改めて認識しましたし、それをあまり
意識せずにする福井は恵まれた地域であるこ
とも感じました」。田んぼはもちろん、水源と



▲審査の様子

グローバルG.A.P.の認証取得で、「一番驚い
たのが「水の問題」だと宮越さんは振り返りま
す。「農業や肥料だけでなく、水を何リットル、
どのように使ったかまで記録することが求め
られる。世界的にみると水は枯渇資源である
ことを改めて認識しましたし、それをあまり
意識せずにする福井は恵まれた地域であるこ
とも感じました」。田んぼはもちろん、水源と



▲10月6日 収穫体験の様子

なる山あいの敦賀沓見水源など2つのため池
でも検査を実施。審査項目に基づく水質検査
や土壌分析、残留農薬検査を通して、科学的根
拠から安全・安心を追求しています。
また、田んぼでは毎年、組合員のみなさんと
の交流として、田植えや収穫体験などを行っ
ています。「親子で参加でき
る食育として好評です。さ
まざまな活動を通して、福
井の農業の元気作りに貢献
できたなら、というのが我々
の思いです」と宮越さん。

(※) グローバルG.A.P.とは

G.A.P.は「Good Agricultural Practice」の頭文字。安全性や
環境面、作業環境など、200以上の項目を第三者機関が収穫時に審査す
る。欧州発の世界認証。適切で効率的な農場管理をするための手法です。

- ① 安全な農産物の生産と出荷
- ② 作業者の労働安全と福祉の確保
- ③ 信頼できる販売管理
- ④ 環境へ配慮した生産活動

4つの柱として
管理点が
定められています。



ふくいレインボーファームの
新米を使った
ハーツのお弁当

ハーツ各店で
11月(予定)より
販売



生協農場
(レインボーファーム米使用)